

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1493400053
法人名	メディカル・ケア・サービス 株式会社
事業所名	愛の家グループホーム 横浜瀬谷
訪問調査日	平成21年1月20日
評価確定日	平成21年2月20日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 1月 29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	第1493400053号
法人名	メディカル・ケア・サービス 株式会社
事業所名	愛の家グループホーム 横浜瀬谷
所在地	横浜市瀬谷区下瀬谷3-41-1 (電話) 045-300-0355

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成21年1月20日	評価確定日	平成21年2月20日

## 【情報提供票より】(平成 20年 12月 18日事務所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 10月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	15人	常勤 10人	非常勤 5人	常勤換算 10.0人

### (2) 建物概要

建物構造	(軽量鉄骨)造り	
	2階建ての	1,2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	82,000 円	その他の経費(月額)	52,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	300,000円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,050 円			

### (4) 利用者の概要 (12月18日 現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	72 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	湘南泉病院 三ツ境病院 中央林間クリニック 湘南台中央クリニック
---------	----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは最寄駅からバスで15分ほどの住宅街にあり、全国展開しているメディカル・ケア・サービス(株)が運営しているグループホーム106ヶ所の1つです。  
法人や事業所の掲げる理念に基づいた利用者本位のサービスに努めています。その取り組みは 職員と利用者のタクティールケアとコミュニケーションを大切にしています。  
諸費用の支援があり、利用者には行事食・外食・ドライブ等生活の楽しみや一部の人へ無料の通院介助。また職員には育成研修・全職員参加の諸会議や親睦会等で職員の動機付けへと繋がっています。安心して暮らせるように法人は年2回、家族アンケートを実施。集計後改善への取り組みや実施後の結果を家族へ知らせ、掲示しています。事務処理の効率化は事務員を配置(月～金曜日)、管理者や職員の業務負担を軽減する配慮がされています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前は9項目ありました。「評価の意義の理解と活用」の自己評価票は管理者とユニットリーダーがまとめて記入をしましたが今回は全職員が関わっています。また、そのうち次の3項目「運営推進会議を活かした取り組み」「市町村との連携」「災害対策」が改善への取り組みを継続しています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価や自己評価については、全職員にその意義とその方法を説明して、2ヶ月前から取り組みました。全項目の中から担当する分野を選択して職員が話し合いながら各項目のまとめをしました。提出用は各階のユニットリーダーが記入をしました。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は昨年、実施されていませんが、平成21年2月に当事業所で開催予定です。議題は「運営方針、地域交流」等です。参加者は地域包括センター、自治会、民生委員、利用者とその家族を予定しています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>ホームの運営改善のため法人が年2回、家族へアンケート調査を実施しています。満足度や意見、要望等集約し改善への取り組みや実施後の結果を家族へ報告しています。それらはユニットごとに掲示されています。また面会時、家族や利用者の意見・要望、不安等を聴き、日常のケアや介護計画に反映できるようにしています。ご意見箱の記入用紙は玄関で面会簿を記入する位置と並列に配置され書きやすい工夫をしています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域交流は、散歩等ご近所の方との挨拶や自治会の加入により夏祭りの参加、公園清掃や子供会のペットボトルのふた集めに賛同した活動等を行っています。また相談も受けています。今後、施設で実施する災害等の訓練にも地域の方の協力・連携ができるように期待します。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「認知症であっても、一人ひとりが地域の中で人間の尊厳を大切に生活を送れるよう支援し事業運営にあたっては安定的かつ継続的な運営に努めます。」事業所独自の理念「受け入れる優しさ・ささえてあげる強さ・共に泣いてあげる慈しみの心を育む」を掲げています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の早勤・日勤・遅勤の申し送り時には法人の理念を唱和しています。居間と同じフロアにある職員への連絡コーナーに理念が掲示されて共有しています。また管理者とユニットリーダーの名刺の裏には法人の理念が印刷されています。諸記録等にも理念に基づいたケアの視点が簡潔に記入されていました。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会へ加入しています。回覧版により年2回の公園清掃に管理者が、利用者は夏祭りに参加しています。子供会の実施しているペットボトルの蓋集めも賛同して取り組んでいます。また地域の人からの相談等も受けています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の実施には、2ヶ月前に全職員へその意義、目的意識(グループホームでしかできないケアを目指す)や取り組みについて説明をしました。各職員が分担し話し合いをしながら項目ごとに記入しました。仕事への動機付けが明確になり、職員同士や利用者へのコミュニケーションが活発になりました。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は昨年、実施されませんでした。平成21年2月に当事業所で開催予定です。議題「運営方針・地域交流について」、また参加者は地域包括センター・自治会・民生委員・利用者とその家族を予定しています。	○	今後の定期的な開催とサービスへの反映が期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村と共にサービスの質の向上に関わる具体的な取り組みがされていませんでした。	○	事業所は市や区等の主催する福祉サービス事業と連携、協同しながら、利用者のサービスの質の向上に繋がる取り組みが期待されます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、健康状態・日常生活の様子を伝えています。介護計画作成は事前に家族の要望や意見等を聞いています。金銭管理の収支報告は月1回発送しています。平成21年1月より「園便り」に利用者の生活の様子、健康状態、要望等を記載し、写真を添えて毎月発行します。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対策には、法人が年2回家族にアンケートを実施しています。要望・意見等の集計後、課題とアドバイスを沿えてホームへ戻し、期限内にその改善と実施後の結果を家族へ報告し、ホームへ掲示しています。意見箱の用紙は玄関の面会簿と並列に配置されています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職がある場合、利用者の不安を防ぐ配慮として、入職者と離職する職員とが数週間重複して仕事に就いています。入職者には、顔を覚えてもらう事、利用者の信頼関係を築くこと、受け答え方、精神面でのケア、できること・できないこと等利用者に対応をするケアの支援をしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正職員は本所で研修制度があります。社外の研修には予算があり県や市の主催する研修に参加できます。園内研修は、ユニット会議の中で毎回30分ほどテーマを決めて実施しています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はサービスの質の向上に向けて横浜市内や大和市内のグループホームと交流し、施設訪問や情報交換をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居する方は家族と一緒にグループホームの見学をして、ホームの生活で「出来ること・出来ないこと」等を説明しています。管理者の顔を覚えてもらうことで不安を和らげ、環境に馴染んでもらえるように配慮しています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は「それぞれのできることを取り入れた生活リズムをとって自信に繋がりました。利用者同士で世話をしていたり、利用者とのコミュニケーションが信頼関係へと繋がって帰宅願望も少なくなりました。また職員はメモ帳が必携で、利用者の言葉や様子等を記入するように指導をされています。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所前に利用者や家族の希望や意向を聞きます。入所後は本人をよく知るため、日々の把握結果を「なんでも手帳」や介護記録に記入し共有しています。家族とは訪問や面会時に、訪問が少ない家族には電話で把握に努めています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は介護記録やケースカンファレンスからユニットごとにまとめ、家族の意見を取り入れ完成しています。現在、利用者の視点と書類の軽減化から、全般的な見直しと徹底に取り組んでいます。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>原則3カ月毎に見直ししており、変化がある場合には直ちに見直ししています。目標については数項目に絞り、極力達成できるように努めています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームドクターによる訪問診療、健康管理の訪問看護、鍼灸師による訪問リハビリ、訪問デンタルが計画的に行われています。骨折した利用者が歩けるようになり、喜ばれています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力関係医療機関や訪問医療(診療・歯科・リハビリ・看護)との連携をしています。また以前からのかかりつけ医への通院介助は無償で行われています。訪問ドクターは長年、認知症患者の診察に携わっており、相談等も受けています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時や家族からの相談には、ホーム側のルールを説明して充分話し合っています。看取りの段階における対応は、家族・医療機関と管理者が相談し、総合判断することとしています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を傷つけないよう、ノックと声掛け、同性介助など一人ひとりの対応に心がけています。記録類は鍵のかかる部屋で管理しています。個人記録はインシヤルで記入しています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の意向を聞き、在宅の延長として自由に過ごせるようにしています。なお、バイタルチェックや天候や体調に合わせた活動をしています。毎月の行事予定は掲示して楽しみを高めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者の状況や意見を聞きながら調理しています。食事を楽しむため、テレビは消し、「いただきます」の発声で、家庭の味を楽しんでいます。配膳や後片付けも手伝っています。利用者の発案で、ラーメンパーティー等の楽しみも増やしています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	健康状態を確認後、意向を聞き入浴時間を設定しています。毎日入浴可能です。入浴したくない利用者には、強制しないで気持ち良く入れるような雰囲気をつくっています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の要望を聞き、出来る範囲で楽しい雰囲気になるよう支援しています。洗濯物たたみ、おしゃべり、オセロゲーム、ぬり絵などをしながら生活しています。外食などや毎月の行事もあります。自分の部屋で好きな事をして過ごす利用者もいます。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候がよければ1日に1回は外出を心掛けています。おやつを買いに近所のスーパーに出かけたり、近くの公園に1日2回行く利用者もいます。お花見には弁当を持参して、リフト付き車両で出かけています。外出を好まない利用者には家族にお願いしたりして工夫しています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は基本的に開放していますが、帰宅願望の利用者の状況を判断して階段や玄関ホールの区切りには施錠しています。ドアには音が出るチャイムも設置しています。居室の鍵はかけませんが、必要により自分で居室に施錠されている方もいます。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防関係の研修に参加しており、消防訓練は4月に行う計画にしています。避難通路のドアは職員が簡単に開閉できる構造になっていて、備蓄品は2カ所に収納されています。緊急連絡先をセットした携帯電話も常備しています。		地域の方々の協力を得た夜間を想定した消防訓練や避難訓練を計画実行する事も期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は管理栄養士が作ったメニューを基に、職員が利用者に合わせて調理しています。利用者の喫食形態の一覧表には、利用者の除去食品がマーカーで明確にされています。水分も利用者個別に管理しており、必要によりゼリーなどで補給しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした共用空間を利用し、くつろぐ場所と食卓があります。フロアにより特徴がありますが、季節のお雛様が飾られ、ぬりえや習字作品、絵など利用者や職員の作品が掲げられており、いずれも明るい色調です。全体的に整理整頓され、落ち着いた明るい雰囲気です。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望で畳部屋にベッドが持ち込まれ、使い慣れたものや好みものが置かれています。居室は整理され、入居者が心地よく生活しています。		

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	愛の家グループホーム横浜瀬谷
(ユニット名)	ひまわり
所在地 (県・市町村名)	横浜市瀬谷区下瀬谷3-41-1
記入者名 (管理者)	恒吉 哲也
記入日	平成 20年 12月 15日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社の運営理念が有ります。また施設独自の理念もあります。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の引継ぎ時に運営理念の唱和を行っています。目的意識を共有する事で良いチームを作りたいです。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族・地域の方々とは名刺交換をさせて頂ますが、裏面に運営理念を印刷しているので、読んでご理解戴いていると思います。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	朝のご挨拶や町内のイベントの際には、ご一緒させて頂いております。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事にはできる限り参加をさせて頂いております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員の周りで又は、ご近所で相談を受けた時に備え、答えられるよう勉強会を開催しています。現在、ご近所の方がホームに来られ、ご相談を受けてお答えしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	私自身、外部評価は通信簿と認識しています。施設を正しく導く指標として、井の中の蛙では地域の方々と共存して行けません。職員には正すところを理解させるには良い機会と考えています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	就任2ヶ月で未だに開催しておりません。		2009年2月に後半に日程を定め、推進員会を開催いたします。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当ケアマネージャーは介護保険の代行申請などで関係を図っています。		地域のグループホーム連絡会等に参加して、質の向上に勤めて参ります。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	私は権利擁護・成年後見制度について熟知していますが、職員は概要は答えられても、全ては把握していないと思います。しかし、ご入居者の中には、後見人制度を活用している方がいらっしゃいますので、身近に感じていると思います。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について職員全員が反対です。今月の会議で虐待について話し合いました。【無視をする事も虐待】知らず知らずに行ってしまう事を知ってほしいと会議で話し合いました。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>今入居なさっているご利用者は、契約時に十分な説明をしていますが、疑問点に付いてはその都度説明しています。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的に本社よりご家族様へアンケートを実施しています。取り纏めたものを、本社より送付され、後日、改善報告書を提出しご家族様へ改善の報告を郵送にて送付しています。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>金銭管理は月一度の収支報告を送付しています。また、各ユニットにてご利用者の生活ぶりを報告するようにしています。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的なアンケート調査があり改善をしています。ご家族にはアンケート結果および改善報告を送付しています。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>当施設では報・連・相を大切にしています。意見や提案を会議の議題にすることも多いです。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ユニットリーダーを中心に連絡網が整っています。必要な人員が発生すれば対応することが出来ます。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職や移動による人員の変更には、ご利用者にリスクを与えないよう入職者、退職者の勤務を重職させ十分な教育を心掛けています。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社にて研修制度があります、社外の研修に於いては、予算が設けられ参加する事が可能に成っています。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターは勿論、他の施設との交流があり、情報交換を行っています。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	人間関係のトラブル・ハラスメント等の、職員専用のホットラインを設けている。また、日頃のストレスを解消して貰う為の年末、年始の宴会費の補助など行っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の時間外労働や勤務状況を毎月本社へ報告し、それを管理し指示を行っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	私どもは、業務に追われる事なく、寄り添った介護を行っています。通りすがりに話を聞くのではなく、椅子に座って目を見ながら傾聴するよう努めています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	お一人お一人のご家族と、ご面会時に懇談させて頂いております。長い時は2時間にもおよび伺い解決策を相互で検討いたします。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状を踏まえた対応を行っています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一つの事を始めるにも、必ず会議を開き、関係機関と連携を図り、ご本人・ご家族の同意を求め、周りの環境を考えながら行います。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	会社の運営理念の他に、施設独自の理念があります。その中の一つに、介護者は「うけいれる優しさ・ささえてあげる強さ・共に泣いてあげる慈しみの心を育む」と言うものがあります。職員には周知すべく指導しています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との信頼関係を構築する事を念頭に置いています。職員には若い者もいれば、未婚者などもいてご家族の内面を理解できないものもおります。そんな時は家族に代わり代弁し、心情を理解させケアに反映させています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご利用者の中には、ご家族の面会が極端に少ない方がいらっしゃるの、十分な相談が出来ない部分も有りますが、電話にて対応しています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人情報の範囲内で、馴染みのお友達などは、ご家族様に確認をしてからご面会を戴きます。場所に関しては遠方は無理ですが、テレビ・歌などを通じて郷土の懐かしさを感じて頂きます。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々の状況を把握しながら、時には席を変更するなど工夫をしながら、ご利用者の関係を支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用を終了する時も最善を尽くしマネジメントをさせて頂きますが、ご家族は不安の中で次のサービスを受けられる事と思いません、心の支えに成れば嬉しいです。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本にご利用者の思うが儘に過ごして頂いていますが、困難な場合はカンファレンス等を開催し検討しています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントにて、ある程度知らされていますが、ご家族が面会の際に何う事で身近に把握できます。しかし、ご家族の面会が少ない方に関しては、なかなか難しい事もあります。		ご利用者のご家族の中には、面会の少ない方もいらっしゃるのでは、電話にてご相談させて頂いております。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々変わらぬご利用者の現状を観察し、全ての勤務者に引継ぎし介護しています。対応が難しい時は、管理者に相談指示を貰います。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	現状を把握しスタッフを交えたカンファレンスは勿論、ご本人さま・ご家族様の意向を確認しながらプランを作成しています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	勿論、急変時や入院など状況い変化が起きた際は、今後の方向をご家族または、関係者と連携を図りプランを立てています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・ケア日誌等を活用しながらプラン作成しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在、訪問診療・訪問デンタル・訪問看護そして、訪問リハビリ等を導入して支援を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内での行事には参加させて頂いています。また、消防関係では研修等に参加しています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	数ヶ月前までは地域サービスを利用していましたが、訪問診療等が重なり現在は利用できないでいます。		今後は、情報を収集して利用できるサービスを活用してまいります。（現在、リサーチ中です。）
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護団体や地域包括支援センターと協力関係にありますが、現状に於いては行っていません。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療・訪問歯科・訪問リハビリ・訪問看護との連携を構築しています。また、以前からの掛かり付け医に対して通院介助を無償にて行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在の訪問ドクターは長年、認知症患者を見て来られています。又、気軽にスタッフが相談できる関係を構築しています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護員が定期的に訪問検診に来ています。ご利用者の健康管理などの助言を戴いています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ソーシャルワーカー様との関係は退院間近になると、連絡を取り合いながら交流を図っています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、重度化した方はいらっしゃいませんが、ご家族様より相談を受けています。施設の方針は契約時にご説明しておりますが、それとは別途でご相談の際に説明しています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームでは常時医療行為を必要とする場合は、致し方なく退去の運びと成りますが、医療行為意を必要としない場合に限り、ご家族・医療・事業者・関係各所の同意を持って対応して行きたいと考えています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在までそのような事態が発生していませんが、出来る範囲で対応してまいります。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人の尊厳を傷つける事の無いよう教育指導をされています。個人記録に関しましては、個人名を記入せず、イニシャルにて記録し、閲覧時には特定できないよう心掛けています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>其の方々に合った対応を心がけ、ご利用者の意見や意向を伺いながら生活しています。また、其の方が不自由の無いように日程表などを居室に掲示し工夫しています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人で過ごしたい方には、強制をしないで自由に過ごして頂いています。しかしレクリエーション時には、声を掛け誘導をしています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理美容は2ヶ月に1回ホームに来てもらいカットしています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事時は職員と一緒に会話をしながら食べています。配膳・下膳も手伝って頂きますが、食器なども洗い拭いて頂いています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>基本的にたばこ・お酒は自由です。現在、定時刻にお酒を呑まれている方もいらっしゃいます。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご利用者の排泄パターンを把握して支援しています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その方の意向を聞きながら、入浴時間を設定しています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご利用者の生活リズムに合わせて休息して頂いています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の要望を伺いながら、出来る範囲で支援しています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の中には金銭を持つ事で安心なさる方もいらっしゃいます。そんな方には散歩がてら一緒に買い物を楽しんできます。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1日1回の外出を心掛けていますが、出来ない場合もございます。しかし、ご要望に対して1日2回という事もあります。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出を好まれる方は、定期的にご家族と外出をしています。なかなかご家族が面会に来られないご利用者には、こちらから声をかけ外出するように心掛けています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者が電話をしたくても、ご家族がご利用者と会話する事を拒まれる方もいらっしゃいます。そうしたご利用者の前では、明ら様に電話が出来ないので、別室にて電話を掛けて頂いています。又、手紙等の投函も職員もしくは、ご本人が投函したければ同行いたします。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族は勿論ですが、馴染の人に関しては、ご家族了承の上、ご面会をして頂いております。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対に行わないと言う大前提に運営しています。拘束が必要と言う場合は、ご家族を交えたカンファレンス会議を行います。それでも拘束は行わず、今後のリスクを検討しながらご家族に同意を得て介護・支援しています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室・玄関に関しては施錠をしていますが、階段や玄関ホールの区切りには安全性を考え引き戸の施錠をしています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	定期的な巡回を行い安否確認を行っています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人に合わせた対応を行なっています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	カンファレンスを通し、又随時対応を考え取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急人の対応マニュアルを貼り出し、職員全員が周知しています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画書は提出しています。平成21年4月に消防訓練を実施いたします。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	必要時にはご連絡をさせていただきご相談しています。又、ご相談内容をカンファレンス会議に反映しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝10時にバイタルチェックを行ないますが、常にご入居者の変化には気をつけています。(顔色・しゃべり方・歩行・など)急変時の対応マニュアルで報告・連絡・相談が出来るように整っています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的は理解は出来ていますが、副作用に関しては十分とは言えません。しかし変化に伴う相談は気軽に薬剤師、および医師との連携が出来る状態にあります。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一日の水分補給の確認と、栄養士が作成した献立、外出や生活リハビリを取り入れながら工夫をしています。薬が必要な方には医師と相談をしながら服薬管理をしています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	その方に合った口腔ケアを行なっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作って管理出来た料理を提供しています。水分補給に関しては、摂取なされない方にはゼリーや好まれる飲み物を提供して工夫をしています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対応マニュアルにもとづき実行しています。解らない場合は確認をしています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、まな板・包丁・食器類・布巾などの消毒を行っています。又、食材については新鮮な材料は言うまでもなく、賞味期限を確認し安全なものを提供しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	特に花々を飾ってはいませんが、玄関スロープなどは清潔にしています。いづれは、ご利用者とプランターを並べガーデニングをと考えています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールなどは午前中の日差しが眩しくカーテンを開閉しています。入浴室は温度差がないよう気を付けています。季節を感じて頂く様に、その時々に合わせて掲示物を工夫しています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごしたい方には邪魔をしないで、将棋などを打つ時は場所をセッティングしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が安心して過ごす空間を、自由に作って頂いています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	現在、インフルエンザが流行していますが、施設内の換気を心掛けています。また、外気温との温度差を考えながら調節をしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体は手すり・スロープ・エレベーターなど、自立に向けた対応を行っていますが、それだけではなく障害物の排除等を視野に入れ、日々その方々に即した対応を考えています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室・風呂場・トイレ・使用中など表示をつくり、ご利用者が自立出来る環境を心掛けています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは狭いため利用する事は困難です。		今後は、プランターなど設置し、花々を観賞できる空間を作っていきます。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

10月に管理者が変わり職員たちは、新しい風を受け入れようと努力しています。しかし、中には受け入れられない者もいて退職した者もおります。現在、グループホームの意義、必要性を解き自立支援に向けた介護を周知させている状況です。何よりご利用者・ご家族との信頼関係を構築し、生きがいの持てる毎日を提供してまいります。

また、職員のスキルアップを図るために、研修等に参加させ活気ある職場を構築してまいります。

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	愛の家グループホーム横浜瀬谷
(ユニット名)	なぎさ
所在地 (県・市町村名)	横浜市瀬谷区下瀬谷3-41-1
記入者名 (管理者)	恒吉 哲也
記入日	平成 20年 12月 15日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>私たちは、その人らしいシルバーライフをサポートすることを理念とし、地域との交流を深め、その理念を基とし日頃のケアに勤めています。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎日の申し送り時に必ず理念を唱和しています。また、カンファレンスなどで理念を基にケアが出来ているか考察しています。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>書面での説明にてある程度の理解はありますが、実際の取り組みや暮らしなど、まだまだ周知されていない様に思いますので、ふれあいの場を増やして参ります。</p>	
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近隣の住民の皆様との関係は良好です。ホーム内での取り組みや生活などを理解していただけるよう、日常的な付き合いを心掛けています。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>夏祭りや公園の清掃などには、参加させて頂いています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域子供会からの依頼により、ご入居者および職員が使用したペットボトルの蓋を集め、ワクチンへ変えて行くと言う支援に賛同し取り組んでいます。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価は通信簿で施設を正しく導く指標と考えています。全スタッフで外部評価に取り組み理解し、正しくより良いホームへ近づく様取り組んでいます。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的な開催は出来ていません。</p>		<p>定期的な開催に向けて準備しています。地域との連携を図り、継続出来る様に勤めて参ります。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>担当ケアマネージャーは介護保険の代行申請などで関係を図っています。</p>		<p>今後はグループホーム連絡会等に参加して質の向上に勤めて参ります。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は必要性を感じて支援できる状態にあります。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待については勿論、全スタッフが反対です。会議でも話し合いを行い、これからも起こらないよう話し合いの機会を定期的で開催して行きます。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>今入居なさっているご利用者は、契約時に十分な説明をしていますが、疑問点に付いてはその都度説明しています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>会社全体でご利用者・ご家族アンケートを定期的に行い、改善があれば直ぐに対応しています。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>金銭管理は月一度の収支報告を送付しています。来年1月からご利用者の生活ぶりを、写真を載せながら報告することに成っています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的なアンケート調査があり改善をしています。ご家族にはアンケート結果および改善報告を送付しています。また、玄関フロアーにはご意見箱を設置し、何時でもご意見ご要望を頂けるようにしています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>等施設では報・連・相を大切にしています。意見や提案を会議で話し合います。また、定期的な個人面談をを行い、意見の言える場を大切にしています。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ユニットリーダーを中心に連絡網が整っています。必要な人員が発生すれば対応することが出来ます。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職や移動による人員の変更には、ご利用者にリスクを与えないよう入職者、退職者の勤務を重職させ十分な教育を心掛けています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社にて研修制度があります、社外の研修に於いては、予算が設けられ参加する事が可能に成っています。また、会議の際、勉強会を行い知識技術の向上に努めています。		
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターは勿論、他の施設との交流があり、情報交換を行っています。		
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	人間関係のトラブル・ハラスメント等の、職員専用のホットラインを設けている。また、日頃のストレスを解消して貰う為の年末、年始の宴会費の補助など行っている。		
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の時間外労働や勤務状況を毎月本社へ報告し、それを管理し指示を行っています。また、ユニットごと毎月、目標を掲げ業務に取り組んでいます。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	私どもは、ご入居者に寄り添い・傾聴し・その人らしく生きることをテーマにしています。どんな訴えも受け止め見逃すことなく、共に生活する者として同じ目線で対応して参ります。		
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	お一人お一人のご家族様とご面会時に懇談させて頂いております。問題などがあれば親身に伺い、解決策を相互で検討いたします。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・ご利用者の同意を得てADLの維持向上のため、リハビリなどのサービスを取り入れた支援に努めています。必要時には専門職に相談するなどして客観的な情報の中から選択して頂いています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族と相談しご利用者が安心できる環境作りをし、納得頂いた上でサービスを開始しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者、職員を問わず、各々が得意分野を生かし及ばぬ部分は補助し合い日々の喜怒哀楽を内包して生活しています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事などのイベントなどを通じて、ご家族にも参加して頂き思い出を共有できるよう支援しています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族もホームに来て頂けるよう行事などを企画し、より良い関係が構築出来るよう職員全体で取り組んでいる。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人情報の範囲内で、馴染みのお友達などは、ご家族様に確認をしてからご面会を戴きます。場所に関して遠方は無理ですが、テレビ・歌などを通じて郷土の懐かしさを感じて頂きます。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	同じ趣味や話題を持っている方などを職員が把握し、ご利用者同士での関係性を持って頂けるよう支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用を終了する時も最善を尽くしマネジメントをさせていただきますが、ご家族は不安の中で次のサービスを受けられる事と思いません、心の支えに成れば嬉しいです。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のご利用者の行動や言動、ご家族様からの情報より出来る限り、ご本人の望みを実現出来るように心掛けています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーション等で知り得た情報は職員全体で共有し日々のケアに生かしています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご利用者個々の生活リズム・身体状況・日々の心理面に配慮しながら全体を把握し、また、日々の日常は介護記録、特記事項などは、申し送りノートへ記載し職員間で情報を共有し総合的に把握しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族からの聞き取りや日々の観察から得られた情報をもとに、モニタリング・アセスメント・カンファレンスを行い、ご利用者の望みや必要とするサービスやケアについて話し合いをして作成しています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	課題に対応して定期的な見直し以外にも、入院やADLの低下に伴う変化が生じた際には、プランの変更、見直しを行い新たに作成しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日常動作、発言、出来事などを記入し職員間で情報を共有している。介護計画がご利用者の現状に合っているかなど、毎日職員間で意見交換をしています。一方では記録の内容が同様化してしまう事もあります。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在、訪問診療・訪問デンタル・訪問看護そして、訪問リハビリ等を導入して支援を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内での行事には参加させて頂いています。また、消防関係では消防署主催の研修等に参加しています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	数ヶ月前までは地域サービスを利用していましたが、訪問診療等が重なり現在は利用できないでいます。		今後は情報を収集して利用できるサービスを活用してまいります。（現在、リサーチ中です。）
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護団体や地域包括支援センターと協力関係にありますが、現状に於いては行っていません。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療・訪問歯科・訪問リハビリ・訪問看護との連携を構築しています。また、以前からの掛かり付け医に対して通院介助を無償にて行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在の訪問ドクターは長年、認知症患者を見て来られています。又、気軽にスタッフが相談できる関係を構築しています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護師が定期的に訪問検診に来ています。ご利用者の健康管理などの助言を戴いています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ソーシャルワーカー様との関係は退院間近になると、連絡を取り合いながら交流を図っています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、重度化した方はいらっしゃいませんが、ご家族様より相談を受けています。施設の方針は契約時にご説明しておりますが、それとは別途でご相談の際に説明しています。終末期に向けた話し合いは現在のところ出来ていません。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	一応の体制は出来ていると思いますが、その話についての検討会はまだ行なっていません。		会議などで議題を上げ、話し合っていきます。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在までそのような事態が発生していませんが、出来る範囲で対応してまいります。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人の尊厳を傷つける事の無いよう教育指導をされています。個人記録に関しましては、個人名を記入せず、イニシャルにて記録し、閲覧時には特定できないよう心掛けています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>其の方々に合った対応を心がけ、ご利用者の意見や意向を伺いながら生活しています。また、其の方が不自由の無いように日程表などを居室に掲示し工夫しています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日の天候やご本人の体調など考慮して、どの様に過ごしたいか伺いながら支援しています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理美容は2ヶ月に1回ホームに来てもらいカットしています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>普通食、きざみ、粥など、その方が食べやすい形態にして提供しています。まれに下膳を手伝って頂ける方もいらっしゃいます。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>基本的にたばこ・お酒は自由です。現在、定時刻にお酒を呑まれている方もいらっしゃいます。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンに合わせてモニタリングしながら、スタッフ全員で支援しています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎朝バイタルチェックをして、その人の健康状態を確認致します。入浴は毎日可能な状態です。入浴の強制はいたしません、気持ちよく入られる様にお手伝いしています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一日の内でその方の生活リズムに合わせて、休息出来るように支援しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の要望を伺いながら、出来る範囲で支援しています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の中には金銭を持つ事で安心なさる方もいらっしゃいます。そんな方には散歩がてら一緒に買い物を楽しんできます。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	暖かく晴天の日は外へお連れしています。近所の散歩や車でドライブなどです。また、季節ごと(お花見等)にお弁当を持って出かける事もあります。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出を好まれる方は、定期的にご家族と外出をしています。なかなかご家族が面会に来られないご利用者には、こちらから声をかけ外出するように心掛けています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時間帯にもよりますがご本人自ら、電話出来る環境は整っています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族は勿論ですが、馴染の人に関しては、ご家族了承の上、ご面会をして頂いております。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対に行わないと言う大前提に運営しています。拘束が必要と言う場合は、ご家族を交えたカンファレンス会議を行います。それでも拘束は行わず、今後のリスクを検討しながらご家族に同意を得て介護・支援しています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての鍵を掛けないケアは残念ながら出来ない場合があります。(不穏で外出願望が強い場合など)		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中帯は見守り、夜間帯は巡回・巡視により安全確認を行なっています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物・はさみ・針などは、施設保管。 薬品、消毒類は所定のクローゼットにて保管。 洗面台にはポリデント等は、必要に応じて使用時にお出ししています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	特に転倒に関しては、十分に注意をしています。(手すり・履物・ベットなど就寝時・風呂場など)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを掲示しており、緊急時に備えています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日頃より地域の方々と交流するように努めています。運営推進委員会にて地域の方々のご理解を頂けるよう努めてまいります。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ホーム長・ケアマネジャーによる、ケアプランが成されています。良い事もリスク面も十分な説明と話し合いがされています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変則交代制の勤務にて、報告・連絡・相談の重要性を職務として言われております。早期発見のためにご利用者への目配り、気付きが必要と感じています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケアファイルに服薬の情報が記載されており、誰もが確認出来るように成っています。又、ホームドクター往診時に新しい情報が出た場合でも医療ノートに記録され、服薬の支援を安全に行なう事が出来ます。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	3回の食事・2回のティータイムなどで、十分な水分補給が来ています。摂取量は個人毎に記録され確認が出来ます。週2回のマッサージ・PTによる理学療法を受けられ、体調管理には留意しております。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個人別に口腔セットを整理かごに入れ、ご利用者が取り出し易いよう、機能性に配慮しています。又、介助の必要な方には声掛け誘導により、うがい・歯磨き・義歯の洗浄をその方の力量に応じて対応させて頂いてます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下困難な方には、きざみ食にしたりトロミをつけたりして、飲み込み易くしています。水分摂取が少ない方には、ゼリーなどにして補うようにしています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種を実施したり、うがい・手洗いの徹底などを行っています。また、口腔からの細菌感染を防ぐため、食後の歯磨き、うがい、義歯の洗浄など口腔内の清潔を心掛けています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板など漂白殺菌をしたり、食器乾燥機を使用して、衛生管理を行なっています。また、野菜などは常に鮮度をチェックし食材の賞味期限内に使い切るようにしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関のドアから道路までは緩やかなスロープになっていて、車椅子でも楽に出入りが出来るように成っています。建物の周囲は緑に囲まれています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の上がり口少し段差がありますが、それ以外はバリアフリーに成っています。リビングには手作りの季節感ある、カレンダーを貼ったり催しの時の写真等を貼ったりしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に合わせて席を移動させたりしています。気の合った方々で、おしゃべりを楽しんだり、テレビを観たり洗濯物をたたんだりと共同生活を楽しんでいる方もいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際に、ご本人が使い慣れた物や好みの物を持ち込まれて、各部屋がそれぞれの(家)になっています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調節には日頃より気をつけています。天気の良い日は窓を開けて風を通し、夜間にご利用者に聞いて温度調節をしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレなどに手すりが設置されており、各部屋のドアも引き戸で安全が施されています。玄関以外は全てバリアフリーに成っています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	先ずはご利用者一人一人をよく理解し、その方に則した対応を行なう事を心掛けています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	現在、居室前の中庭には柵があり、入れなく成っています。ご利用者の中には草が気になって入りたいと思われている方もいらっしゃいます。		花が好きで土いじりが好きなご利用者の為の安全なスペースを作ってあげられたらと思います。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

さまざまな機会を通じて、地域の人達とのふれあいを大切にし、地域の清掃等の係わりを持ち、ふれあいサロンなどに参加するようにしたい。